

第660号

展示と催し物案内

東京国立博物館 ニュース

2003
7・8
月号

「日本美術の流れ」をつかめ！

7月1日 本館2階 リニューアルオープン ●2

アレクサンドロス大王と東西文明の交流展 ●4

こどもミュージアム 「アレクサンドロス大王の大冒険」 ●6

江戸開府400年記念 「江戸を掘る」 ●6

平常展見どころ案内 2003年7・8月 ●7

納涼図屏風／麗子像／新たな国民のたから—文化庁購入文化財展

関市・春日神社の能装束／広開土王碑 など

はくぶつかん散歩 本館前庭付近 ●9

誌上ギャラリー・トーク 「特別—挙公開 北斎の富嶽三十六景」 ●10

INFORMATION コンサート／賛助会／海外展 ●12

TOPICS／Who's Who in 東博 ●13

平常展の主な展示作品 ●14

2003年 7月・8月の展示・催し物 ●16



日本美術の流れをつかめ！

2003年7月1日 本館2階リニューアルオープン

日本の文化ってなんだろう？ 日本美術の流れをつかみたい。
そんなご要望にお応えするために本館2階平常展示を時代別展示にリニューアルしました。
ひとつひとつの作品を楽しみながら、日本美術史のタイムトンネルをくぐってみませんか。
時代の特徴をつかむとともに、個々の作品のもつ魅力をより深く感じていただけるはずです。

第14室 茶に遊ぶ

利休から近代茶人の世界まで



◎一重口水指 銘 柴庵
信楽 桃山時代・16世紀
(広田松繁氏寄贈) 千利休所
持と伝えられる信楽水指
◆展示期間7月1日(火)
～10月5日(日)



竹一重切花入 銘 圓城寺
千利休作 天正18年(1590)
(松平直亮氏寄贈)
利休の作った竹花入
◆展示期間7月1日(火)
～8月31日(日)

室町時代に生まれ桃山時代に大輪の華を咲かせ、江戸時代、そして近代、現代と続く茶の湯。さまざまなアプローチで「茶の湯に遊ぶ」のがこの展示室のテーマです。7・8月の展示では、茶の湯の大成者として知られる千利休にゆかりの作品を中心に紹介いたします。

第13室 鎌倉・南北朝・室町 1

武士の文化・禅林の美に触れる

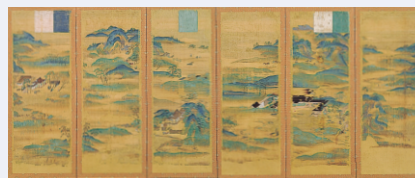


鎌倉・南北朝・室町時代における代表的な仏像・仏画・祖師絵伝・写経・経塚遺品などの仏教に基づく作品。禅林に關わる墨跡や水墨画、あるいは物語絵巻、古筆や和歌懷紙などの文学に關する作品、さらに、相互に關連する太刀や短刀、小袖などの工芸作品もご覧いただけます。

◎六道絵(阿修羅道)
鎌倉時代・13世紀
滋賀・聖衆來迎寺藏
六道の苦惱と悲慘に満ちた様子を、写實的に表現した仏教絵画
◆展示期間7月1日(火)
～8月4日(月)

第12室 国宝室

絵画と書跡の国宝に出会う



◎山水屏風 鎌倉時代・12～13世紀 京都・神護寺藏
小さなモチーフがちりばめられる
◆展示期間7月1日(火)～8月4日(月)



◎孔雀明王像
平安時代・12世紀
東京国立博物館藏
華麗な彩色が見どころ
◆展示期間8月5日(火)
～9月15日(月・祝)

室町時代以前の絵画・書跡の国宝を陳列する部屋です。選りすぐった一作品をゆつたりとした空間で、じっくりと鑑賞していただきます。7月はやまと絵屏風の逸品「山水屏風」を、8月5日からは、院政期密教絵画を代表する名品「孔雀明王像」をお目にかけます。

第15室 鎌倉・南北朝・室町 2

工芸でたどる中世の営み



◎金銅五種鈴
鎌倉時代・13世紀 静岡・尊永寺藏 中世工芸のテクニックが凝縮された、華やかな仏教用具の世界
◆展示期間7月1日(火)～9月15日(月・祝)

中世の工芸品を毎回テーマをもって展示します。7月1日～9月15日は「祈る」と題して、仏教で用いられたさまざまな工芸品を紹介いたします。仏教美術は、堂内を厳かに装うものの、仏を供養するもの、密教で用いられた独特の修法具、僧が使用したものなど多岐にわたっています。それらの遺品がもつとも多く残っている鎌倉時代の優品をご覧ください。

14 茶に遊ぶ

13 鎌倉・南北朝・室町 1

12 国宝室

特別第3室

11 飛鳥・奈良・平安



◎海賦蒔絵袈裟箱
平安時代・10世紀 京都・教王護国寺藏
空海と甥の天台座主円珍ゆかりの作品が会します
◆展示期間7月1日(火)～9月15日(月・祝)

日本美術の流れをたどる最初の部屋です。導入として、縄文・弥生・古墳時代を代表する各品を一点ずつ、そして、飛鳥時代から平安時代の美術・工芸作品をご覧いただきます。中心となるのは仏教美術で、古筆切や古代貨幣なども展示します。東寺の海賦蒔絵袈裟箱は、空海が唐より持ち帰った袈裟を容れていたものです。

仏教の伝来と受容をたどる

第11室 飛鳥・奈良・平安

第16室 桃山・江戸 1

絢爛たる装飾美に酔う

桃山から江戸時代の美術工芸を、さまざまなテーマに沿って展示します。7月1日～9月21日のテーマは「装う―化粧道具と装身具―」。女性がお化粧する際に用いた鏡台や柄鏡、美しく結い上げた髪に挿した櫛や簪などを展示します。お姫様の化粧道具や技巧の限りを尽くした櫛笄など、必見です。



天香具山蒔絵鏡台
桃山時代・17世紀
数少ない桃山時代の鏡台の遺例
◆展示期間7月1日(火)～9月21日(日)

第17室 桃山の風

自由奔放な創造のとき

桃山は、日本史上まれに見る風通しのいい時代でした。大規模な建造物が次々に完成し、西欧との交流も盛んになります。ここには、当代を代表する豪放華麗な美術・工芸品が並びます。まず初回は、彩りも鮮やかな南蛮屏風と、西欧で大好評を博した南蛮漆器の展示をお楽しみください。



◎南蛮人渡来図屏風
桃山時代・17世紀 個人蔵
当時流行した南蛮屏風の典型。街を練り歩く宣教師や商人の姿を生き生きと描く
◆展示期間7月1日(火)～8月11日(月)



◎松巒古寺図
田能村竹田筆 江戸時代・天保4年(1833) 頼山陽・青木木米との交友の証
◆展示期間7月1日(火)～8月11日(月)



色絵傘人物文大壺
伊万里・柿右衛門様式
江戸時代・17世紀 ヨーロッパ人の愛した日本陶磁
◆展示期間7月1日(火)～9月7日(日)

第18室 桃山・江戸 2

多彩な美を愉しむ

桃山時代から江戸時代末期までの絵画・書跡を中心に、彫刻・工芸の作品も展示し、近世の美術を通覧します。8月12日～9月7日は、江戸開府四〇〇年記念特集陳列シリーズ「幕府と町人の一つとして、葛飾北斎の『冨嶽三十六景』全四十六枚を一挙公開(10頁参照。同シリーズ「江戸の納涼」(第19室)に合わせて、8月12日～9月21日は国宝の久隅守景筆「納涼図屏風」(7頁参照)を展示します。

第19室 江戸を見る

文化とくらしに迫る

7月1日～8月11日は「江戸の料理」、以後、「江戸の納涼」「江戸の雛形」「江戸の博物志」「江戸の年中行事」「江戸の作法」「江戸の医学書」と、さまざまな側面から江戸に迫る特集陳列シリーズ「幕府と町人」をご覧ください。美術作品や史料を通して、江戸の文化と人びとのくらしに触れてください。



四条家世伝庖丁之書
明治23年(1890)謄写
◆展示期間7月1日(火)～8月11日(月)「江戸の料理」

第20室 近代

西洋との出会い・伝統の再発見



南北朝戦間 川辺御橋筆
明治26年(1893)「武者絵の御橋」とよばれた筆者
◆展示期間7月1日(火)～8月11日(月)



◎老猿 高村光雲作 明治26年(1893)
シカゴ万博出品作で光雲の代表作
◆展示期間7月1日(火)～

明治・大正・昭和の絵画・工芸を中心に、書跡・彫刻の作品もあわせて展示します。明治五年(一八七二)の文部省博覧会を前身とする当館には、内閣勸業博覧会や万国博覧会への出品作や帝室技芸員の作品、岡倉天心が在籍していた関係で日本美術院の作家の重要な作品などが所蔵されています。

■ 本館リニューアルに伴う閉室のお知らせ ■

本館の平常展リニューアルに伴い、6月2日～30日は2階第11室～20室を閉室させていただきます。引き続き1階の展示ケースのメンテナンスを行うことになりました。このため、6月30日～7月7日は1階の第1～6室、および第10室を閉室させていただきます。皆様にはたいへんご迷惑をお掛けしますが、何卒ご了承くださいませ。お願い申し上げます。

また、当館では、今回のリニューアルを踏まえ、平常展をさらに充実するよう、来年の夏に本格的なリニューアルを行う予定です。

ますます面白くなる東京国立博物館にどうぞご期待ください。

特別展

アレクサンドロス大王と 東西文明の交流展

地中海からエジプト、中央アジアに至る大帝国を築いたアレクサンドロス大王。

大王の東征をきっかけとしておこった、ギリシャ文明の東方への伝播と
受容の過程をたどる大美術展を開催します。アレクサンドロスってどんな人？
そんな疑問にこたえる、アレクサンドロス展Q&A。



アレクサンドロス大王胸像(ローマ時代模刻)
オリジナル 紀元前4世紀末 フランス・ルーヴル美術館蔵
大王その人にもっとも似ているという像
©RMN-H.Lewandowski

Q いまなぜ、アレクサンドロスをテーマにした展覧会が企画されたのですか？

A マケドニア王アレクサンドロスは、父フィリッポス二世の遺志を継いでギリシャの諸ポリス(都市国家)から東征軍総司令官に選出され、オリエントの超大国アケメネス朝ペルシャに攻め入り、紀元前334年、東征軍は連戦連勝し、ペルシャの領土を完全に征服しました。

この展覧会の目的は、アレクサンドロスの東征をきっかけにして展開された東西文明の交流と融合、新たな文化・文明、ヘレニズム文明の誕生と展開を、ユーラシアの広い地域に遺された美術作品から跡づけることです。古代文明は衝突をし、多くの犠牲を払いました。が、それだけではありません。過去の伝統を踏ま

えつつ、それに優る世界文明が生まれる要因となりました。アレクサンドロスの東征は、文明のグローバル化をもたらしたといえるでしょう。

Q アレクサンドロス大王はどんな人だったのですか？

A アレクサンドロス大王は、彼が発行したコインでは、ライオンの皮をかぶったヘラクレスの姿で表されています。マケドニアの首都ペラで出土した裸の青年像は、一對の角をもち、この地で信仰を集めた牧神パンと一体化しています。顔貌はイタリアのティーヴォ出土の像(写真右)のそれが最も本人に近いといわれています。いずれの像もなかなか凛々しい美男子で、前髪を中央から左右に分けています。金髪だったとする伝記もありますが、ポンペイのモザイク画では褐色です。

アレクサンドロスの生前・死後を通じてさまざまな伝記が書かれてきましたが、いずれも早い時期に失われました。今に伝わる一級史料、アッリアノス著『アレクサンドロス大王東征記』及びインド誌によれば、彼は天才的軍司令官で、時には無謀な作戦も実行しています。自ら先頭をきって突撃するため、何度も危ない目にあっています。しかしそういう司令官だからこそ、配下の将兵も決死の覚悟で戦い、数で圧倒的なペルシャ軍を敗ることができたのでしょう。

こちらは巷説ながら、こ

アレクサンドロス大王10ドラクマ銀貨
紀元前330
～前323年
イギリス・大英博物館蔵
ライオンの皮をかぶる像



牧神姿のアレクサンドロス大王像
紀元前4～前3世紀 ペラ出土
ギリシャ・ペラ考古学博物館蔵
頭に角をもつ像

©HELENIC MINISTRY OF CULTURE



んなエピソードもあります。幼少時のことです。マケドニアの宮殿で、アレクサンドロス王子は神々を祀るために香料を焚くことが大好きでした。養育係のレオニダスが諫めて言いました。「王子様、このような高価な香料を焚くのは、その原産地(アラビア)を征服してからにしてください」と。東征の野望は案外このあたりから始まるのかもしれない。

ギリシャの神から日本の神へ



クラテル(ボレアス神)
紀元前4世紀 大英博物館蔵
北風の神ボレアスが描かれた
ギリシャの陶器



風神ウァドー像 浮彫
2〜3世紀 ガンダーラ出土
ドイツ・ベルリン国立インド美術館蔵
風をはらむマントを手にした
ガンダーラの風神

風神図(風神雷神図屏風のうち)
江戸時代・19世紀
東京・出光美術館
風の袋をもつおなじみの日本の風神像
(8月5日〜18日、9月23日〜10月5日展示予定)



アレクサンドロス大王と東西文明の交流展

8月5日(火)〜10月5日(日) 東京国立博物館平成館

一般1300(1100/950)円・高校・大学生900(800/500)円、

小・中学生400(300/200)円

* ()内は前売り/20名以上の団体料金。

* 障害者とその介護者一名は無料です。障害者手帳などをご提示ください。

主催 東京国立博物館 NHK NHKプロモーション 読売新聞社

共催 ギリシャ文化機関

後援 外務省 文化庁 駐日ギリシャ共和国大使館

特別協賛 キヤノン 大日本印刷

協賛 清水建設 三井住友海上

協力 日本航空 フィンランド航空

ところがその後、西で中央アジアを支配したヘレニズム国家、セレウコス朝が弱体化すると、領土の東部分ではイラン系のパルティア王国、ギリシャ人のバクトリア王国が興り、中央アジアやインド亜大陸北部は、インドのマウリヤ朝や、後にはイラン系のクシャーン朝などと接するようになります。ギリシャ起源の文化はこの地でイラン系、インド系の文化と融合することとなり、東方化したギリシャ文化あるいはギリシャ化した東方文化が生まれました。これがヘレニズムまたは東方ヘレニズム文化です。

Q 大王の東征の結果、どのような文明が生まれたのですか？

A 紀元前九世紀頃に始まるアルカイック期のギリシャ美術は、紀元前五世紀頃にはクラシック期を迎え、後のお手本となるような数々の傑作を生み出した。他方、紀元前六世紀に成立したアケメネス朝ペルシアは古代オリエント美術を集大成し、華麗な宮廷芸術として完成させました。完成度の高い東西二つの美術は、相互に影響を及ぼしつつ独自の発達をしていたのですが、ペルシア帝国が滅亡し、アレクサンドロスの死後もその後継者たちによるギリシャ系王朝(ヘレニズム国家)群が成立したため、ここにギリシャ文化が堰を切って流れ込んでくることとなりました。

Q 東方ヘレニズム文化の特徴はどのようなものですか？

A 美術作品の例を挙げてみましょう。ガンダーラの仏教美術には、さまざまな仏像や神像があります。そもそも神を人間の姿で表し、こうした像を造る行為自体がギリシャ的で、東方にはないものでした。表現の様式にもギリシャの影響は見られます。ガンダーラでは風神ウァドーが信仰されていました。それはマントを両手で広げて疾走するギリシャの北風の神ボレアスの姿で表現されています。またクシャーン族の財宝神ファッロー、豊穡を司るインドのヤクシャ、クベラは、ギリシャの富と商業の神ヘルメスを手本として表されました。オリュンポスの神々と結びついた在地の神々は他にもあり、東西融合の新しい形を見ることが出来ます。

Q ヘレニズム文化は日本にもやってきたのでしょうか？

A 奈良時代以後、日本は大陸の高度な文化を受け入れ、自分のものとしてきました。東大寺正倉院にはシルクロード経由でもたらされた西方起源の宝物が多数含まれ、また仏教文化とともに、ヘレニズム文化の影響が、時差を累積しつつ何波にもわたって到来し

ました。すなわち、わが国の寺院に伝わる毘沙門天や大黒天、執金剛神、阿梨帝母、風神などには、ユーラシア大陸の遙か西方、ギリシャの神々の姿の名残を見ることが出来るのです。古代の日本はユーラシアを横断する東西交渉路の東のターミナルにあつたという訳です。

(A: 後藤 健)

記念講演会(事前申し込み制)

8月9日(土)13時30分から

(開場13時予定)

「ボッティチエリと俵屋宗達との間、ギリシャの風神の東漸」

田辺勝美(本展ゲストキュレーター、中央大学教授)

9月6日(土)13時30分から

(開場13時予定)

「アレクサンドロス大王と香料の路」

後藤 健(東京国立博物館上席研究員、共) 会場 平成館大講堂 定員380名

申し込み方法

官製往復はがきの「往信用裏面に郵便番号・住所・名前(ふりがな)・電話番号・希望日、「返信用表面」に郵便番号・住所・名前を明記して申し込みください。

*1枚の往復はがきで、1人、1講演のみ、お申し込みできます。

*応募多数の場合は、抽選のうえ受講券1枚で1人入場可を送ります。

締め切り

8月9日分:平成15年7月25日(金)必着
9月6日分:平成15年8月22日(金)必着

申し込み・問い合わせ

〒103-0014

日本橋蛸殿町1-28-9 ヤマシビル4F

「アレクサンドロス大王展」広報事務局

TEL 03-3639-0721

アレクサンドロス大王と東西文明の交流展 同時開催 平成15年度こどもミュージアム

「アレクサンドロス大王の大冒険」

8月5日(火)～9月28日(日) 本館1階特別第5室

特別展「アレクサンドロス大王と東西文明の交流展」に合わせて、こどもミュージアム「アレクサンドロス大王の大冒険」を開催します。アレクサンドロス大王の生い立ちや少年時代のできごと、大人になって遠征した先の国々やそこで起きたエピソード、アレクサンドロス大王が各地へ伝えたヘレニズム文化についてなど、パネルや作品で親しみやすく解説します。夏休み期間中、ご家族のご来館をお待ちしております。ワークショップも用意しています。

■ワークショップ 参加無料(ただし入館料は必要となります)

アレクサンドロス大王のコイン作り

1回10人程度、1日数回行います

モザイクで遊ぼう

随時

リUTTONを作ろう

随時

8月中毎日17時まで開催

博物館探検：ギリシアの模様を探そう

8月16日・23日・30日、9月15日・23日の11時開催(自由参加)

■描いてみよう! アレクサンドロス大王展(事前申込制)

こどもミュージアム会場で、特別展「アレクサンドロス大王と東西文明の交流展」の内容をやさしく説明したあと、閉館後の特別展会場に移動し、いろいろな作品にあらわれたアレクサンドロス大王の姿をスケッチします。夏休みの夕刻、親子で「アレクサンドロス大王展」に参加してみませんか? 詳細はホームページ、メールサービス、ちらしなどでご案内します。

*展示とワークショップについてのお問い合わせ

東京国立博物館 教育普及室 TEL 03-3822-1111(代)

■これからの特別展■

10月7日(火)～12月21日(日) 表慶館 煌きのダイヤモンド

—ヨーロッパの宝飾400年—

主催:東京国立博物館 TBS 朝日新聞社

16世紀から現代までの、ダイヤモンド・ジュエリーの名品を集めます。歴史に輝く王侯貴族が身につけたジュエリーの数々を表慶館でご堪能ください。



翼のモチーフのある
小さなティアラ
アントワープ州立
ダイヤモンドミュージアム蔵

10月31日(金)～12月14日(日) 平成館 江戸開府400年記念特別展 伊能忠敬と日本図

主催:東京国立博物館

新発見の伊能小図(三枚揃い、当館蔵)の初公開を含む、地図の大展覧会。



◎大日本沿海輿地
図
伊能忠敬作
東京国立博物館蔵

国宝 大徳寺聚光院の襖絵

主催:東京国立博物館 大徳寺聚光院 NHK

NHKプロモーション 日本経済新聞社

狩野永徳とその父松栄による国宝の襖絵を全点公開。



小判 東京都中央区銀座6丁目出土 江戸時代・17世紀
昭和31年(1956)、工事現場から小判208枚、一分金60枚が見つかった



白楽獅子香炉
東京国立博物館法隆寺宝物館
地点出土 江戸時代・17世紀
常慶作の香炉。当館蔵の完形
品も合わせて展示



焼塩壺 東京国立博物館平成館地点出土
江戸時代・17～18世紀
食卓塩の詰まった素焼きの容器

考古遺物からさぐる江戸の街のいとなみ。
博物館構内の発掘品も初公開!

「江戸を掘る」

7月19日(土)～9月28日(日) 平成館寄贈品展示室

江戸開府四〇〇年記念 特集陳列シリーズ 幕府と町人

近年、日本考古学は近世の遺跡の発掘調査をも積極的に行うようになり、文献だけではわからない、当時の具体的な様子を知る上で大きな成果を上げています。今回の特集陳列では、それらの成果の一端を、館蔵品を中心に展示します。

当館の蔵品には、江戸時代の考古遺物はあまり多くありませんが、その中で目をひくものに、戦後まもなく、銀座六丁目出土した小判と一分金があります。商業の盛んだった江戸時代を象徴するものです。

徳川將軍家の居城、江戸城関連の遺物としては、本丸の建築に先立って行われた地鎮祭で使用された鎮壇具(本丸跡から出土)などを展示します。

また、上野の山は、江戸時代には徳川家と関係の深い寛永寺の寺域でした。平成館 法隆寺宝物館の建設に先立って行われた発掘調査では、寛永寺に関連すると思われる遺構も検出されています。その際の出土品の中から、焼塩壺、かわらけ、陶磁器類、瓦などを展示します。寛永寺に関連する絵図なども合わせて展示します。

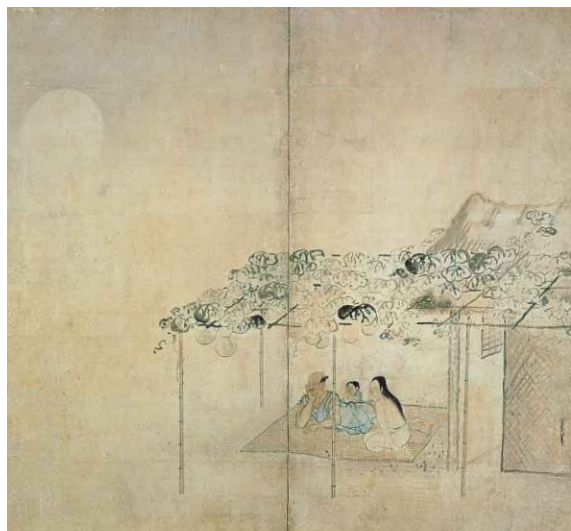
なお、平成館の考古展示室では、上野公園や文京区本郷の東京大学構内から出土した遺物も展示しています。合わせてご覧ください。(望月幹太)

■ 近世絵画 ■

家族団欒の至福の時
納涼図屏風

8月12日(火)～9月21日(日) 本館第18室

夏の宵、日の沈んだ空に満月が姿を明らかにしていきます。日中の暑気もひき、薄暮の中に涼やかな気が訪れます。一日の労働を終えた一家団欒の夕涼みの時が描かれています。



●納涼図屏風 久隅守景筆 江戸時代・17世紀
親子の会話が聞こえてくるよう

この図は、豊臣秀吉の正室北政所の甥で、関ヶ原の戦の後、隠棲して風流生活を送った木下長嘯子の和歌夕顔のさける軒ばの下すゞみ男はてくれ女はふたの物に発想を得て描かれたものといわれています。「ててれ」は褌、「ふたの物」は腰

巻きのことです。

男の描写に用いられた無骨な線、女の軟らかく伸びやかな線、子供の木訥とした線、その描線は三人の肉体さらには性格をあらわし自在に使い分けられています。久隅守景、生没年不詳は、狩野探幽門下四天王の筆頭とされましたが、のち破門され江戸を離れ、この絵の深みを支えています。

江戸狩野派の作品は組織化された社会に対応するように定型化していきますが、本図にはそれを離れた主題と表現の自由さがあります。

残業に追われ、家族団欒の夕べを忘れた生活、自然の時の流れに身を置きたい、なにものかから解放されたい欲求が近年のアウトドアブームの背景にあります。この絵はそんな漠然とした不安を癒してくれるでしょう。(田沢裕貴)

■ 江戸開府四〇〇年記念 ■
美味しいものと涼を求めて
特集陳列シリーズ

幕府と町人

7月1日(火)～8月11日(月)
「江戸の料理」
8月12日(火)～9月21日(日)
「江戸の納涼」

本館第19室

好評の江戸開府四〇〇年記念特集

陳列シリーズ「幕府と町人」から、本館第19室の展示をご紹介します。7月から8月にかけては、料理がテーマです。四条流の料理書などから、江戸時代の食文化を探ります。8月から9月にかけては「江戸の納涼」。「西岸一覽」「花火之図」「朝顔集図」など涼を呼ぶ風俗を写す作品、また、「子供遊水合戦」など暑中ならではの



子供遊水合戦
江戸～明治時代・19世紀
「江戸の納涼」より

の楽しい場面を描いた作品をご紹介します。

■ 近代絵画 ■

写実の果ての神秘
麗子像

7月1日(火)～9月21日(日) 本館第20室



●麗子像
岸田劉生筆 大正10年(1921)
劉生は、一連の麗子像によって美の「深さ」を会得したという

岸田劉生(一八九一～一九二九)は、娘の麗子を五歳から十六歳まで描き続け、油彩のほか水彩や素描を合わせると五十点以上もの作品を残しています。そのなかでも、もっともよく知られるのが、青いみかんを手にしたこの八歳像でしょう。ダ・ヴィンチのモナ・リザを連想させる口元や、肩掛けの圧倒的な材質感が印象的です。十日ほどで描きあげた

これ以前に、劉生は「深く写実を追求すると不思議なイメージに達する。それは『神秘』である」という境地に到達していました。この「麗子像」にまさにその神秘を感じとることができるのではないのでしょうか。(松原 茂)

■文化庁特別展示■

新たな国民のたから―文化庁購入文化財展

7月1日(火)～8月10日(日) 本館特別第3室・特別第4室

文化財保護法においては、文化財の散逸や滅失、海外流出を防ぎ、文化財保護に万全を期するために、国宝・重要文化財を有償で譲渡しようとする場合には国に優先して購入する権利が認められており、現在そのための購入予算が約二十五億円措置されています。文化庁では譲渡申出がされた文化財や海外流出の可能性がある文化財を中心に計画的な購入を進める一方、定期的に国立博物館へ移管し広く国民に公開してまいりました。この

度、こうした文化庁の仕事をご理解いただくため、平成十三年度以降に購入した作品を主体に、文化庁の所蔵作品を広くご紹介する初めての展覧会を開催します。内容としては、特別第3室では「仏像と経典」を、特別第4室では、大名と調度を展示いたします。主な作品には、●花厳経尊義宗良時代・8世紀、青銅経筒(平安時代・11世紀、木造四天王立像(鎌倉時代・14世紀)、◎西行物語(鎌倉時代・13世紀)があります。(齊藤孝正

■工芸■

文学をデザインする

パズルを愉しむ―日本の工芸と王朝文学―

7月8日(火)～9月21日(日) 本館第4室

平安時代に始まる王朝文学は、工芸の世界にも大きな影響を及ぼしました。「歌絵」とよばれる物語や和歌をテーマにしたデザインが、鎌倉時代以降、大流行したのです。また、画面の中に文字を散らして、物語の一場面や和歌を暗示する「葦手絵」もおおいに好まれました。昔の知識人たちにとって、代表的な物語や詩歌は、誦(よ)めることができるほど身近

な存在でした。だから、なんの変哲もない画面や、片々たる歌文字から、即座に物語や歌を導き出すことができたのです。王朝文学から出題されるパズル。それは、まことに高度で、奥行きが深い遊びです。しかし、王朝人たちにとっては、基本的な教養が問われる、厳しい試練だったともいえましょう。(小松大秀)



葛細道時絵沈箱
室町時代・16世紀
葛と楓が茂る山道を
描いただけの箱。
これでなんと「伊勢物語」!?



叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度 一括(36種)
江戸時代・18世紀 文化庁蔵
棚飾を伴うまとまった一括品で18世紀を代表する大名婚礼調度



◎縫箔白練緯地松藤揚羽蝶模様
桃山時代・16世紀 岐阜・春日神社蔵
桃山時代の豪壮なデザインを刺繍で表した、子方(子役)の縫箔

■染織■
自由でおおらかな桃山流
特集陳列「関市・春日神社の能装束」

7月8日(火)～9月7日(日) 本館第3室

岐阜県関市・春日神社は、奈良・春日社の分神を勧請し、関鍛冶の守護神としたのに始まり、大部分が室町時代から桃山時代のスタイルを持ち、中世の末には能が行われていたことと想われます。春日神社の能装束は明治維新以後、長らく境内にある能舞台の床下

に眠っていました。戦後、染織には珍しい中世の遺品がまとまって四十件あまりも発見されたことで、大変な話題となりました。今回は、江戸時代の様式化された能装束とはまったく異なる、おおらかな桃山デザインの縫箔や、中国製の織物で製作された法被・側次など、重要文化財七件を特別公開し、中世の能の雰囲気をお楽しみいただきます。

(小山弓弥蔵)

■ 法隆寺宝物館 ■

法隆寺幡から正倉院幡へ

平絹襷継分幡

7月29日(火)～8月31日(日) 法隆寺宝物館第6室

幡は仏堂の内外や追善供養などに飾られた旗です。人体のように、頭にあたる幡頭、胴に相当する幡身、足の幡足からできています。

この幡の幡身部は、二条の縁に囲まれた坪と呼ばれる部分を正方形とし、各坪とも三角形の色替わりの

平絹を四枚縫い合わせた大変カラフルな仕様で、下方には帯状の幡足を下げています。法隆寺幡は、坪を縦長に作るものが大部分ですが、正倉院の聖武天皇一周忌(天平勝宝九年・七五七)に飾られた道場幡では、正方形の各坪を色替わりの錦で斜めに縫

い合わせ、幡足には縁をつけるなど、大変装飾的になってきます。こうした点を考慮すると、この平絹襷継分幡は、法隆寺幡から正倉院幡へ移行する過渡期の幡と考えられます。

(沢田むつ代)



平絹襷継分幡
奈良時代・8世紀
仏堂を飾ったカラフルな幡

■ 東洋館 ■

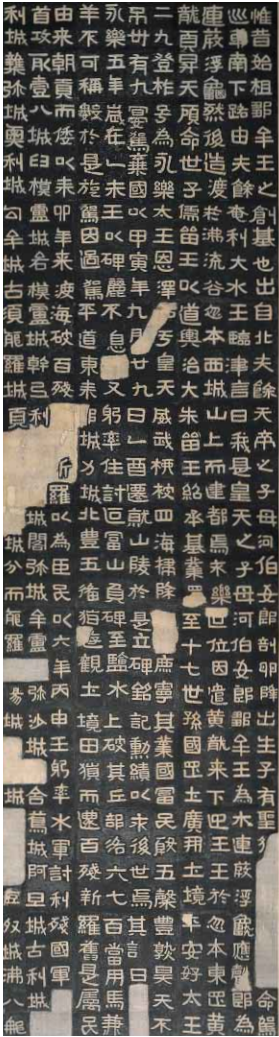
教科書で見たあの碑文

特集陳列

「広開土王碑」

7月23日(水)～8月31日(日)

東洋館第8室



広開土王碑 酒匂本
1883年(明治16)に酒匂影信氏が中国から持ち帰り、その後の研究の基礎となった資料。文章の一部が意図的に改変されていたという説もある

広開土王碑は、倭(今)代の日本と高句麗が戦ったことが記されていることで有名で、学校教科書にも登場します。しかし碑文の解釈は学者によってさまざまで、論争が続けられています。今回は、碑の内容を日本に初めて伝えた酒匂本(碑文を紙に

写し取ったもの)をはじめ、当館所蔵の広開土王碑に係る資料を集めて展示します。今回の展示で論争に決着をつけることはできませんが、古代史の生の資料に接していただくよい機会となるでしょう。

(谷 豊信)

はくぶん散歩 2



本館前で拾ったレンガ片



コンドル設計の旧本館 明治15(1882)年開館

カントウタンポポを訪ねて前庭をうろうろしてました。あまり知られていませんが、このあたりはカントウタンポポやシロバナタンポポを見ることができのです。目的の花のロータスの下に小さな赤い石ころ? がありました。手に取ってみると、レンガの破片です。東京国立博物館の庭になぜレンガ片があったのでしょうか。もしかするとガラスが持ち込んだのかもしれない。なにせ、ハシブトガラスは稀代のいたずらもので、すから、なにをするかわかりませんので。

ところで、このレンガ片には意味があるのです。けしてハシブトガラスのせいではなく、むしろここにあるのは当然のことなのです。現在の本館が建てられる以前、その場所には有名なコンドルが設計した本館がありました。コンドルの本館はレンガ造り二階建て、建坪は七二四坪というもので、明治十三年(一八八〇)十二月に完成しました。「永世不朽」を謳った建造物でしたが、関東大震災には勝てず損壊してしまつたのです。

(上野仁彦)

旧本館の赤レンガ

東京国立博物館本館

前庭付近

特別一挙公開 北斎の富嶽三十六景 ほんとうは四十六景!?

誰もが知っている北斎の富嶽三十六景。しかしその全貌を見る機会はありません。全作品を並べてみてはじめてわかる、北斎の風景画の真髓に迫ります。



講師 田沢裕賢
東京国立博物館
教育講座室長

四十六枚ある!?

今回は、北斎の「富嶽三十六景」特別一挙公開の会場にご招待します。大きな波の裏にのぞく遠い富士、朝日に映える赤富士のクロウズアップなど、誰でも知っている有名なあの富士山のシリーズです。

かなり小さくなってしまいました。が、全作品を掲載してみました。こゝでちょっとおかしなことに気付かれた方、いらっしやいませんか？ 三十六景のほゞなのに、四十六枚ありますね。間違えて他のシリーズをもってきたわけではなく、これが「富嶽三十六景」の全作品なのです。

謎を解く宣伝コピー

この謎を解くために、この作品が出版されたときの事情をみてみましょう。ご存知のように、浮世絵版画は何部も摺って一般に販売されたものです。刊行の際には現代の出版物と同じようにさまざまな宣伝がされました。「富嶽三十六景」発売当時の広告はその当時の流行作家、柳亭種彦の合巻「正本製」の後ろに出ています。ちょっと長いですが、読んでみましょう。「富嶽三十六景」は、一翁画藍摺一枚一枚に一景ずつ、追々出版。此絵は富士の形その所によりて異なることを示す。或は七里ヶ浜にて見るかたち、又は佃島より眺る景など、総て一ようならざるを著し、山水を習う者に便す。此ごとく追々彫刻すれば猶百にもあまるべし。三十八に限るにあらず。

どうやらこのシリーズは、はじめから三十六枚と決めていたわけではなく、人気が出れば、百枚だって出さず、という版元の心意気が見て取れますね。だから四十六枚あっても不思議はないのです。ところで、この広告の文の中にある「藍摺」という言葉、気になりませんか？ 幕末の頃、ペロリンブルー、通称「ペロライ」という青色の染料が中国から日本に入ってきました。目のさめるような強烈な青を使った錦絵は「藍摺」と呼ばれ、江戸の人々の心を捉えました。あらためて「富嶽三十六景」を見ると、たしかに鮮やかなペロライが空や海に効果的に使われています。とくにシリーズ前半には藍が印象的な作品が揃っているようです。いま、シリーズ前半に、と言いました



が実はこの四十六枚がどんな順番で出版されたのか、浮世絵の研究者の間では論争が絶えない大問題なのです。

藍摺から多色使いへ

四十六枚はいくつかのグループに分けることができます。まず、主版(全体となる線を表す版を藍色で摺った三十六枚(図1~36)と、主版を墨で摺った十枚(図37~46)です。藍版のグループは、全体を藍色の濃淡で表現するなど「藍摺」の名にふさわしい仕上がり作品が多いのに対し、墨版を使った十枚は、藍以外のさまざまな色が増えています。宣伝文には「きり「藍摺」と謳われていることからすると、藍色を使った絵が先に出たと考えられます。そこで、この藍版の三十六枚が一般に「表富士」と呼ばれています。これに対し、墨版を使った十枚は「裏富士」と呼ばれています。表富士三十六枚は、さらに、「前北斎為」という署名のあるもの二十六枚(図1~26)と「北斎改爲」の署名のあるもの十枚(図27~36)に分けることができます。宣伝文で触れられている七里ヶ浜や佃島の絵は「前北斎為」のグループに入っていることから、このグループが最初に出版されたと考えられます。「前北斎為」以前から用いられた署名の「北斎改爲」の十枚には、「神奈川沖浪裏」(図34)「凱風快晴」(図35)「山下白雨」(図36)の、世に「三役」と呼ばれる傑作群が含まれており、この十枚をシリーズ中のどこにおくのか、意見のわかれるところですが、

「顔のない人物」

製作の順番を考える上で、私が注目しているのは、風景と人との関係です。北斎の「富嶽三十六景」には、基本的に「人」が描かれていません。人が登場する場合でも、たいてい後ろを向いています。たとえば前を向いていても無表情で、個性や人格は感じられません。北斎にとって人物は画面を構成する要素のひとつに過ぎないのです。北斎は、風景をひとつの造型としてとらえることに神経を集中しています。その結果生まれた、シンプルで緊張感のある風景が、北斎の「富嶽三十六景」の魅力なのではないでしょうか。

「富嶽三十六景」の全作品を並べてみると、その風景と人との関係が、少しずつ変化していることに気がきます。表富士は風景を造形的にとらえた強い表現なのに対し、「裏富士」の十枚では、人事やさまざまな事象を多く描き込む傾向がみられ、全体に緊張感がなくなるようです。

私の意見を申し上げましょう。まず、七里ヶ浜や佃島を含む藍摺の二十六枚が出版され、「北斎改爲」の署名がある十枚は、三十六景の最後を飾るものとして出版されたのではないのでしょうか。シリーズは人気を博していたので、儲けをねらった版元の意向によるものか、さらに裏富士の十枚が出版されたと考えます。人と風景との関係で言えば、風景そのものを捉えた緊張感のある作品

を打ち出した北斎は、三十六景の最後をそれまでであったために下絵を描いていた、あるいは既に「これぞ決定版」という自信作の出版で締めくくったのではないのでしょうか。さらに続く裏富士十枚は、絵の中の人事のパーセンテージが徐々に上がり、緊張感のないものが多くなっています。

いずれにせよ、四十六枚の並べかたによって印象は違ってくるはず。絵と向き合いつてグループ分けしながらどんな順番で出版したのか、版元や北斎の気持ちになつて考えてみるのも面白いと思います。

(構成 小林 牧)

江戸開府400年記念
特別一挙公開
北斎の富嶽三十六景
8月12日(火)~9月7日(日)
本館第18室



42 身延川裏不二



37 本所立川



32 武州玉川



29 武州千住



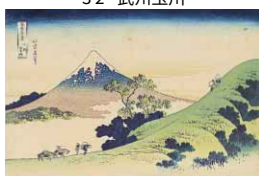
26 登戸浦



43 駿州大野新田



38 從千住花街眺望ノ不二



33 甲州犬目峠



30 尾州不二見原



27 深川万年橋下



44 駿州片倉茶園ノ不二



39 東海道品川御殿山ノ不二



35 凱風快晴



31 青山円座松



28 東都駿台



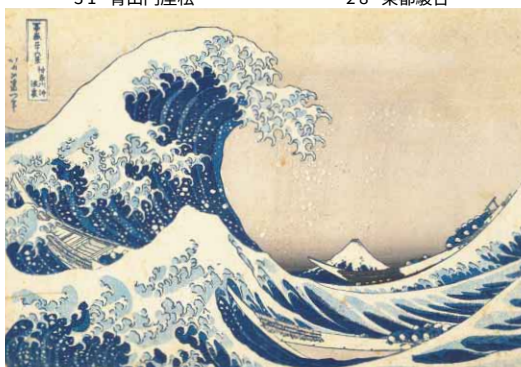
45 東海道金谷ノ不二



40 相州仲原



36 山下白雨



34 神奈川沖浪裏

私のベスト1 ▶波がでかい。水の波というよりはいきものように襲いかかってきます。波の落ちてくる線をたどると富士に焦点が定まります。波に翻弄される舟をこく人物たちに個性はなく、とにかく必死の様子。人間を飲み込む自然の脅威が感じられます。ドビュッシーが交響詩「海」のインスピレーションを得た作品としても有名です。

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では、賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究、平常展・施設整備等の充実に充てております。どうか賛助会の趣旨をご理解・ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)有効
賛助会員には、特別会員と維持会員との二種類があります。

年会費	
特別会員	100万円以上
維持会員	法人 20万円 個人 5万円
特典	
●特別展の特別内覧会にご招待	
●展覧会の招待券贈呈	
●国立博物館ニュースの送付	
*賛助会員の申し込みは随時受け付けています。	
*ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員(NM Members)入会申込書をお送りします。	
*お問い合わせ 東京国立博物館渉外課 TEL 03-3822-1111(代)	

東京国立博物館賛助会員 平成15年5月1日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
東京電力株式会社 様
株式会社コア 様
安田生命保険相互会社 様
株式会社精養軒 様
毎日新聞社 様
日本経済新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社ミロク情報サービス 様
株式会社りそな銀行 様
東京ガス株式会社 様
TBS 様
LVMHモエヘネシー・ルイヴィトン・ジャパン株式会社 様
NHK 様
昭和鉄工株式会社 東京支社 様
株式会社鴻池組東京本店 様
株式会社東京新聞・中日新聞社 様
株式会社電通 様
読売新聞東京本社 様

維持会員

三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社三冷社 様
東日本電信電話株式会社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
小金井造園株式会社 様
株式会社クマヒラ 様
ソニー株式会社 様
株式会社NTTドコモ 様
斎藤 京子 様
井上 萬里子 様
森本電気興業株式会社 様
田添 博 様
株式会社鶴屋吉信 様
株式会社東京美術 様
篠内 匡人 様
服部 禮次郎 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
日本通運株式会社美術品事業部 様
(順不同)

◆コンサート開催のお知らせ

美術鑑賞とともにゆったりとしたひとときをお楽しみください。

ハーブ&チェロコンサート

日時 6月30日(月)19:00~
場所 東京国立博物館 平成館ラウンジ
演奏 弓子シュレイファー(ハーブ)、オリバー・シュレイファー(チェロ)
主催 東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
参加費 5000円(平常展観覧券付、全席自由)
申し込み 当館正門観覧券売場でチケット販売(開館日の9:30~16:30)

●電話による予約販売も受け付けています。

お申し込みは TEL 03-3821-9270(東京国立博物館渉外課)

受付 月曜~金曜 9:30~17:00
(土日は受付していません)

●チケットは当館正門観覧券売場で代金引換にてお渡しいたします。
引換時間:演奏会の前日までは、開館日の9:30~16:30。特別展「鎌倉一禅の源流」開催時の金曜日(6月6日、13日、20日、27日)は19:30まで。演奏会当日は18:00~
※サロン・ド・ソネットの次回コンサートは9月22日(月)岡田博美ピアノコンサートの予定です。

バロック音楽のタペ レクチャーとコンサート

①レクチャー

日時 7月8日(火)19:00~
場所 東京国立博物館 表慶館
講師・演奏者 中野振一郎(チェンバロ)、池田卓夫(ジャーナリスト)、延原武春(オーボエ)、中山裕一(ヴァイオリン)
主催 日本テレマン協会、東京国立博物館
企画・構成 NEC
特別ゲスト 河合隼雄文化庁長官
参加費 2000円(学生1000円)(平常展観覧券付、全席自由)

②コンサート

日時 7月23日(水)19:00~
場所 東京国立博物館 表慶館
演奏者 中野振一郎(チェンバロ)、延原武春(オーボエ)、コレギウム・ムジクム・テレマン
主催 東京国立博物館、日本テレマン協会
参加費 5000円(平常展観覧券付、全席自由)
申し込み(レクチャー、コンサート共通)
当館正門観覧券売場でチケット販売(開館日の9:30~16:30)

特別展「鎌倉一禅の源流」開催時の金曜日(6月6日、13日、20日、27日)は19:30まで。

●電話とeメールによる予約販売も受け付けています。

お申し込みは TEL 03-3821-9270(東京国立博物館渉外課)

TEL 0120-332-869(日本テレマン協会)

e-mail telemann@mui.biglobe.ne.jp

受付 月曜~金曜 9:30~17:00
(土日は受付していません)

●チケットは当館正門観覧券売場で代金引換にてお渡しいたします。
引換時間:演奏会の前日までは、開館日の9:30~16:30。特別展「鎌倉一禅の源流」開催時の金曜日(6月6日、13日、20日、27日)は19:30まで。演奏会当日は16:30以降も引換します。

ファミリーコンサート

日時 平成15年7月26日(土)
①11:30~12:10 ②15:30~16:10
場所 平成館ラウンジ
演奏 東京クラリネット・クワイアー
料金 無料(ただし入館料は必要です)

*お問い合わせ 東京国立博物館渉外課

TEL 03-3821-9270(受付 月曜~金曜 9:30~17:00)

◆ドイツ・ボンで東京国立博物館コレクション展開催 8月28日(木)~10月26日(日) 「soul and beauty of JAPAN」-日本の美 日本の心-

ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール(ドイツ・ボン市)におけるTHE GREAT COLLECTIONSシリーズと称する世界の代表的な美術館コレクションの展覧会です。記念すべき第10回展に「soul and beauty of JAPAN(日本の美 日本の心)」と題して、この8月にアジアの地域としては初めて東京国立博物館が登場します。この展覧会は室町時代から江戸初期に焦点を当て、書院・京文化の担い手・茶と能・武士の装いと生活・琳派の各テーマのもとに、東京国立博物館所蔵品の中から、梁楷の下山釈迦図(重要文化財・南宋時代・雪舟の秋冬山水図(国宝・室町時代)・狩野永徳の檜図屏風(国宝・桃山時代)・近衛信尹の和歌屏風(桃山時代)などの名品が出品されます。(島谷弘幸)



●秋冬山水図 冬 雪舟筆 室町時代・15世紀

東京国立博物館友の会 & パスポート

友の会 年会費 10000円 発行日から1年間有効
特典 東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送や、友の会対象のイベント・講演会の開催、当館ガイドブックの進呈などさまざまな特典があります。

パスポート 一般 3000円 学生 2000円
 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、各1回計6回までご覧いただけます。

◆申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で友の会

加入者名(振替先) 東京国立博物館友の会

口座番号 00160-6-406616

金額 10000円

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・職業・年齢・性別・メールアドレス(メールサービス希望の場合)を楷書でご記入ください。

パスポート

加入者名(振替先) 東京国立博物館パスポート

口座番号 00120-3-665737

金額 一般3000円、学生2000円

*振替用紙には申込区分(一般か学生)、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください。

*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください。

*振替手数料はお客様の負担となります。

◆問い合わせ

東京国立博物館渉外課 渉外開発係
 TEL 03-3822-1111(代)

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします。

◆申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先) 東京国立博物館ニュース

口座番号 00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください。

*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください。

*振替手数料は申込者のご負担となります。

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30~17:00、4月から12月の特別展開催期間中の金曜日は20:00まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月29日~1月1日)。ゴールデンウィークおよび夏休み期間(7月20日~8月31日)は原則として無休。

平常展観覧料金

一般420(210)円、大学生130(70)円

* ()内は20名以上の団体料金

*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください。

*満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください。



本館前のユリノキの黄色い花。5月上旬~中旬に開花



解説付きの樹木プレート

◆自然を楽しむ―樹木プレートが増えました
 当館の敷地内には、さまざまな樹木があり、季節のうつり変わりを感ぜさせてくれます。こうした植物について興味をもたれる方が多いため、この春約六十カ所に樹木プレートを増設しました。「ボランティアによる樹木ツアー」のコースに生育している名木、珍木を中心として主なものに名札をつけたのに加え、中でも特徴があり、当館のシンボリック存在のユリノキ、シダレザクラ、スイフヨウの三カ所には写真入りでその由来などを記した看板を設置しました。

展示をじっくり見た後は、屋外の自然に親しんでみてはいかがでしょうか(ボランティアによる樹木ツアーの開催スケジュールは、裏表紙の「展示・催し物カレンダー」をご覧ください)。

◆『MUSEUM』584号
 (6月15日発行予定)の掲載論文
 ①『博物資料としての鳥写生図巻』磯野直秀(当館客員研究員)
 ②『東京国立博物館の環境保全計画―無線通信とLANの併用による温湿度計測システムの開発』和田浩(当館環境保存室研究員)
 神庭信幸(当館保存修復課長)
 ③『ロンドンの大型博物館・美術館における広報活動について―大英博物館の事例を中心に―』鬼頭智美(当館広報室研究員)
 ④『シルクロード展に寄せて―木画を想う―』木内武男(当館名誉館員、木彩会名誉会長)
 *購読の問い合わせ
 当館ミュージアムショップ
 (TEL) 03-3822-1008(8) まで

Who's Who in 東博



絵ハガキにして持ち帰りたいような展示空間づくり

デザイン室 展示デザイナー
 木下 史青

博物館には、小さい頃から親に連れられて来ていましたから三十年以上の付き合いです。大学の卒業制作は旧・法隆寺宝物館の展示リニューアル計画でした。
 展示の決め手はなんといっても照明です。照明次第で展示自体の雰囲気も印象もがらりと変わる。よく、会場が暗いとのお叱りもありますが、「快適な暗さ」というのもあるのではないかと思います。
 現在、本館の展示構成を見直しており、この7月に第一段階として2階をリニューアル・オープンします。新しい展示体系では、一巡すると日本美術の歴史を概観できるようになります。広い本館の中を歩きながら時代の変化がわかるよう、各時代ごとに明暗や直線・曲線を使い分けたメリハリのある場面づくりを目指しました。
 海外のミュージアム・ショップでは展示風景の絵はがきを置いてあることがあります。東博を訪れた方が「この展示シーンを持ち帰りたい」と思うような、絵になる空間作りができればと思っています。

山田殿像銘

飛鳥 ○弥勒菩薩半跏像 丙寅銘
飛鳥 ○摩耶夫人および天人像
飛鳥または三国 ○光背 甲寅銘
飛鳥 ○押出阿弥陀如來・尊および僧形像

第3室 伎楽面

飛鳥 ○29/8/31

飛鳥 ○醉胡王

飛鳥 ○毘女

飛鳥 ○道

飛鳥 ○獅子兒

第4室 木・漆工

飛鳥 ○獅子兒

飛鳥 ○29/8/31

武器・武具

飛鳥 ○奈良 ○杵葉

飛鳥 ○奈良 ○壺鏡

奈良 ○梓弓

奈良 ○利箭

奈良 ○鋸

奈良 ○鎌

第5室 金工

飛鳥 ○童子水瓶

飛鳥 ○鵝尾形柄香炉

飛鳥 ○奈良 ○水瓶

奈良 ○蓋鏡

奈良または唐 ○水滴・墨台・匙

第6室 絵画・書跡・染織

書跡 ○7/1/8/31

唐 ○細字法華經

平安 ○梵網經

平安 ○法華經

染織 ○7/1/7/28

飛鳥 ○刺繡殘片

奈良 ○花鳥蝶文錦褥

染織 ○7/29/8/31

奈良 ○平絹襷分幡

奈良 ○錦斜縫分幡幡殘欠

東洋館

第1・2室 彫刻 「7/1列品解説

クシャーン朝 石造菩薩交脚像

3世紀 石造菩薩頭部

1/3世紀 人物・鹿・双獣文磚

インド・マトゥラー

1/3世紀 人物・鹿・双獣文磚

8/9世紀 金銅如來坐像 カシュミール

唐 ○石造浮彫三尊仏龕 (宝慶寺石仏)

唐 ○石造如來倚像 (天龍山石窟)

16/17世紀 金銅ヤーマンタカ像

《東房子氏》

西アジア・エジプト

第3室 エジプト

プトレマイオス朝 木彫錫像

第23王朝 カルトナージュ棺とミイラ

第3室 西アジア

初期王朝時代 銅製空健神像 イラク南部

ウル第3王朝 楔形文字粘土板文書

イラク

ササン朝 ガラス製切子裝飾碗

12/13世紀 ラスター彩鉢 イラン

インド・東南アジア

第3室 考古

パンチェン文化 青銅器・土器 タイ

第3室 陶磁

7/1/1/1

12/13世紀 黒褐釉象形容器 タイ

15世紀 青磁蓮花文棧花皿

タイ・シーサッチャナライ窯

《山田義雄氏》

第3室 ベトナムの青花

7/15

15/16世紀 ○青花魚藻文大皿

16世紀 ○青花鹿山水文大皿

1677年 青花貼花龍文花瓶

「永治三年六月初八日銘

第3室 彫刻

8/9世紀 銅造ジャムバラ坐像

インドネシア

12世紀 石造ナガ上の仏坐像

カンボジア、アンコール・トム

《フランス極東学院交換員》

第3室 染織

インド更紗 ○7/15

18世紀 白地花鳥獸文様更紗 南インド

中国

第4・5室 考古

戦国 灰陶蛋形壺

前漢 灰陶加彩馬

第5室 金工

《原田古藏氏》

唐 海獸葡萄鏡

唐 双鳳瑞花八花鏡

第5室 陶磁

唐 ○白磁鳳凰瓶

遼 緑釉皮囊壺

第5室 染織

清 刺繡龍袍 (個人) 7/7/13

明 淡紅地牡丹唐草文様金紗 7/15

第5室 漆工

7/8

明 ○柳水禽螺鈿合子

《団伊能氏》

7/8

清 如意形時計

第6・7室 画像石

後漢 画像石 山東省

第8室 絵画

山水 ○7/21/7/22は閉室

山水図 伝夏珪筆

山水図 王誥筆

明 樓閣山水図 仇英筆

明 初夏山齋図 居節筆

明 ○江山無尽図巻 呉振筆

人物 ○7/23/8/31

元 琴棋書画図 伝任仁発筆

明 ○禿頁郎図 呂文英筆

明 ○夢 図巻 唐寅筆

清 城南雅集図巻 禹之鼎筆

《以上2件高島菊次郎氏

清 諸葛亮図 張風筆

第8室 書跡

明時代の書 ○7/21/7/22は閉室

楷書前後出師表巻 祝允明筆

楷書宋文問詩巻 王寵筆

楷書離騷経巻 文徵明筆

《以上高島菊次郎氏

草書七言律詩軸 陳淳筆

行草書尺牘軸 陳子龍筆

《林宗毅氏

7/23/8/31

特集陳列「広開土王碑

8/19列品解説 会場＝平成館大講室

広開土王碑酒匂本

広開土王碑臨写本

「願土王陵 碑

朝鮮

第9・10室 考古

原三国時代 ○獸文飾板 慶尚北道慶州

楽浪 銅製薫炉・銅壺・虎形帶鉤

三国 ○金冠 伝慶尚南道

統一新羅 ○南山出土品 慶尚北道慶州市

《以上4点小倉コレクション保存会

第10室 金工

高麗 ○青銅鐘「乾統七年銘

(西新井大師総持寺

第10室 彫刻

高句麗 塑造菩薩立像 《山本茂策氏

三国 金銅如來及両脇侍像

三国 菩薩半跏像

《以上小倉コレクション保存会

第10室 陶磁

統一新羅 印花文土器

朝鮮 粉青緑彩魚文双耳鉢

第10室 団扇

7/1/8/25

朝鮮 全州芭蕉葉扇

第10室 絵画

8/26

朝鮮 瀟湘八景図屏風

第10室 西域美術

6/7世紀 三眼菩薩頭部

トゥムシク出土

5世紀 共命鳥 ヨトカン

《大谷探検隊将来品

第10室 西域絵画

唐・8世紀 壁画仏坐像 クムトラ石窟

《ドイツツールファン探検隊将来品

3/4世紀頃 壁画有翼天使像 ミーラン

《大谷探検隊将来品

8/5

先縄文 磨製石斧 長野・日向林B遺跡

縄文 ○土偶 宮城・恵比須田

縄文 ○足形付土製品 新潟・山北町

縄文 ○人形裝飾付異形注口土器

北海道・上磯町茂辺地

縄文 ○深鉢 埼玉・上福岡貝塚(個人

縄文 ○玉斧 栃木・湯津上村

統縄文 壺・甕 北海道・絵鞆町

弥生 壺・甕他 福岡・東小田七板

弥生 ○壺 東京・久ヶ原 (個人

弥生 硬玉勾玉・碧玉管玉 福岡・石崎

弥生 ○銅鐙 伝香川

弥生 ○多鈕細文鏡 奈良・長柄

弥生 銅 長崎・佐護ケル

弥生 ○赤烏元年銘神獸鏡

古墳 山梨・鳥居原古墳(二宮長間神社

古墳 ○景初三年銘画文帯神獸鏡

古墳 ○二萬二獸鏡 大阪・和泉黄金塚古墳

古墳 ○人物画像鏡 (隅田八幡神社

古墳 壺(庄内式 大阪・庄内遺跡

古墳 ○滑石製剣・斧・刀子・鎌

古墳 ○鉄盾 奈良・佐味田宝塚古墳

古墳 有柄鉄斧 山梨・大丸山古墳

古墳 金銅製肩庇付冑

古墳 ○新沢千塚126号墳出土品

古墳 ○ガラス碗 伝大阪・安閑陵古墳

古墳 ○銀象嵌銘大刀・冠帽・杵・馬具・

古墳 耳飾 熊本・江田船山古墳

古墳 ○宮地嶽古墳出土品

古墳 福岡・津屋崎町(宮地嶽神社

古墳 塚廻古墳出土品 大阪・河南町

古墳 ○須臾器把手付碗 静岡・上香貫

古墳 ○須臾短甲の武人 埼玉・上中条

古墳 埴輪 踊る人々 埼玉・江南町

古墳 ○埴輪猿 茨城・玉造町

古墳 蓮華文軒丸瓦 奈良・飛鳥寺

奈良 ○金銅製有蓋壺 奈良・加守

奈良 鴟尾 大阪・高井田廃寺

平安 ○極楽寺経塚出土品

平安 兵庫・香寺町(常福寺

平安 鴻臚館跡出土品 福岡市中央区

鎌倉 ○無閑神師墓出土品

京都・東福寺(東福寺

鎌倉 黄釉唐草文四耳壺 静岡・森町

江戸 ドイツフレチェン窯細水注片

《東京大学構内遺跡

寄贈品展示室

6/7/7/13

特集陳列「川端家寄贈の毘沙門天立像

平安 ○毘沙門天立像

平安 ○毘沙門天印仏

平安 ○絹本着色毘沙門天像

7/19/9/28

◆特集陳列「江戸を掘る」

江戸 白象獅子香炉 常慶作

江戸 白染獅子香炉・焼塩壺・陶磁器

江戸 鎮壇具 東京・江戸城本丸跡

江戸 慶長小判・他 東京・銀座

*◆は、江戸開府四〇〇年記念特集陳列シ

リーズ「幕府と町人」の展示です。

*●は国宝、○は重要文化財、○は重要美

術品を表します。

*展示期間の記載のないものは7・8月の

2ヵ月を以て展示されるものです。

*《内は所蔵者》《内は寄贈者》を

表します。所蔵の表記のないものは当館

所蔵の作品です。

*「」は列品解説です。会場の表記のない

ものは、当該展示室にて行います。

*都合により、展示期間・展示品・列品解説

の予定を一部変更することがあります。

*本館2階第11室・第20室は、6月2日

〜6月30日、リニューアルのため閉室

させていただきます。

*本館1階第1室・第6室、及び第10室

は、6月30日〜7月7日、展示室メンテ

ナンスのため閉室させていただきます。

表紙

富嶽三十六景 神奈川沖浪裏(部分

葛飾北斎筆 江戸時代・19世紀

2003年7月

東京国立博物館7月・8月の展示・催し物

2003年8月

1 TUE	本館2階リニューアルオープン 東洋館第2室 列品解説「金色のほとけさま—中国の金銅仏をめぐる—」 14:00
2 WED	11:30/15:30 14:00 15:00
3 THU	
4 FRI	夜間開館 20:00まで 11:30/15:30 坐禅会※ 11:00/13:00/15:00/16:30/18:00 庭園内応挙館
5 SAT	15:00
6 SUN	
7 MON	休館日
8 TUE	列品解説「江戸の料理」 14:00 本館第19室 ※バロック音楽のタベ レクチャー 19:00 表慶館
9 WED	11:30/15:30 14:00 15:00
10 THU	
11 FRI	夜間開館 20:00まで 11:30/15:30 坐禅会※ 11:00/13:00/15:00/16:30/18:00 庭園内応挙館
12 SAT	講演会 初めての東京国立博物館 15:00 「中国陶磁鑑賞入門」 13:30 平成館大講堂
13 SUN	川端家寄贈の昆沙門天立像最終日 鎌倉一禅の源流展最終日
14 MON	休館日
15 TUE	列品解説「唇に水晶をあてた菩薩像」 14:00 本館第8室
16 WED	11:30/15:30 14:00 15:00
17 THU	
18 FRI	11:30/15:30
19 SAT	15:00
20 SUN	講演会 古代の染織シリーズ⑤ 「作品について：幡」 13:30 平成館大講堂
21 MON	
22 TUE	
23 WED	14:00 15:00 ※バロック音楽のタベ コンサート 19:00 表慶館
24 THU	
25 FRI	
26 SAT	講演会 初めての東京国立博物館 考古学入門⑥ 15:00 「古墳時代の考古学II(後期)」 13:30 平成館大講堂 クラリネットコンサート 11:30/15:30 平成館ラウンジ
27 SUN	
28 MON	
29 TUE	
30 WED	11:30/15:30 14:00 15:00
31 THU	

1 FRI	11:30/15:30
2 SAT	15:00
3 SUN	
4 MON	
5 TUE	アレクサンドロス大王と東西文明の交流展 / こどもミュージアム アレクサンドロス大王の大冒険 列品解説「関市・春日神社の能装束」 14:00 本館第3室
6 WED	11:30/15:30 14:00 15:00
7 THU	
8 FRI	夜間開館 20:00まで 11:30/15:30
9 SAT	※「アレクサンドロス展」記念講演会 15:00 「ポッティチェリと俵屋宗達の間」 13:30 平成館大講堂
10 SUN	
11 MON	
12 TUE	列品解説「納涼図の家族」 14:00 本館第18室
13 WED	11:30/15:30 14:00 15:00
14 THU	13:00/14:30
15 FRI	夜間開館 20:00まで 11:30/15:30
16 SAT	講演会 初めての東京国立博物館 13:00/14:30 「朝鮮半島の考古学入門」 13:30 平成館大講堂 15:00
17 SUN	
18 MON	
19 TUE	列品解説「高句麗・広開土王碑」 14:00 平成館大講堂
20 WED	14:00 15:00
21 THU	13:00/14:30
22 FRI	夜間開館 20:00まで
23 SAT	講演会 初めての東京国立博物館 考古学入門⑦ 13:00/14:30 「古代の考古学」 13:30 平成館大講堂 15:00
24 SUN	
25 MON	
26 TUE	
27 WED	14:00 15:00
28 THU	13:00/14:30
29 FRI	夜間開館 20:00まで
30 SAT	講演会 13:30 平成館大講堂 13:00/14:30 15:00 「巨像の移送と展示について—高幡不動尊金剛寺の不動三尊像を中心に—」
31 SUN	10/5まで

*上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定は、インフォメーションカウンターでご確認ください。
※坐禅会の参加には整理券が必要です。(当日10:00より平成館ラウンジにて配布開始。「鎌倉一禅の源流」展観覧券または半券をご提示願います。) ※バロック音楽のタベは有料イベントです(本誌12ページをご覧ください)。
※「アレクサンドロス展」記念講演会は事前申込が必要です(本誌5ページをご覧ください)。
*講演会の開場は、開演の30分前を予定しています。

🌳 = ボランティアによる樹木ツアー、場所：前庭内
👤 = ボランティアによる本館ハイライトツアー、場所：本館
📖 = ボランティアによる浮世絵版画展示解説、場所：本館1階
🏯 = ボランティアによる法隆寺宝物館ツアー、場所：法隆寺宝物館

〈京都国立博物館〉6月24日(火)~8月31日(日)
特別展覧会「アート オブ スター・ウォーズ展」

〈奈良国立博物館〉7月1日(火)~8月17日(日)
日本・インド国交樹立50周年記念特別展「インド・マトゥラー彫刻展」
日本・パキスタン国交樹立50周年記念特別展「パキスタン・ガンダーラ彫刻展」